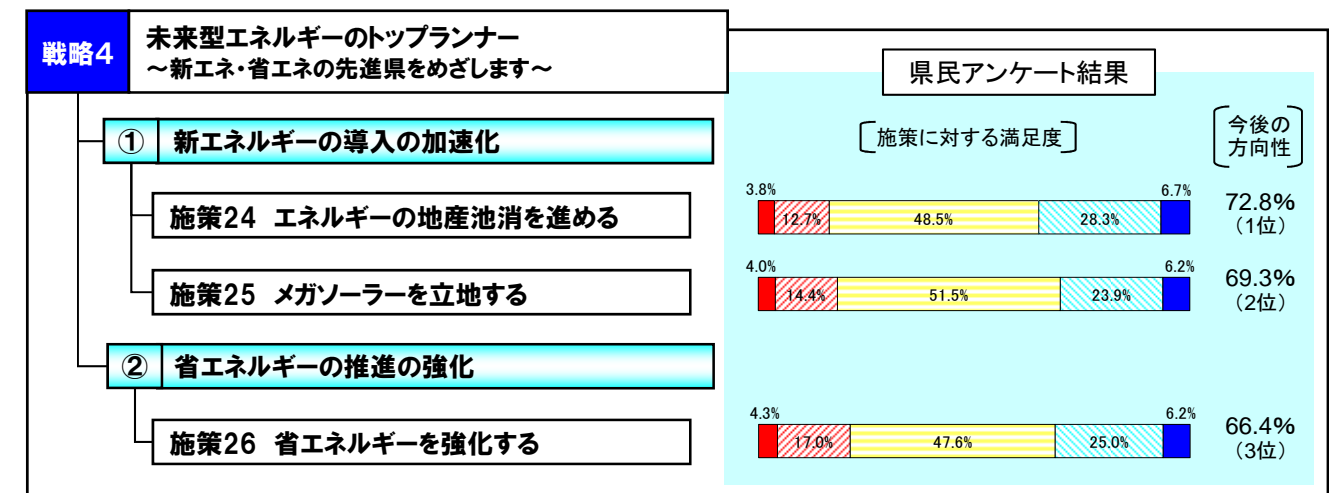
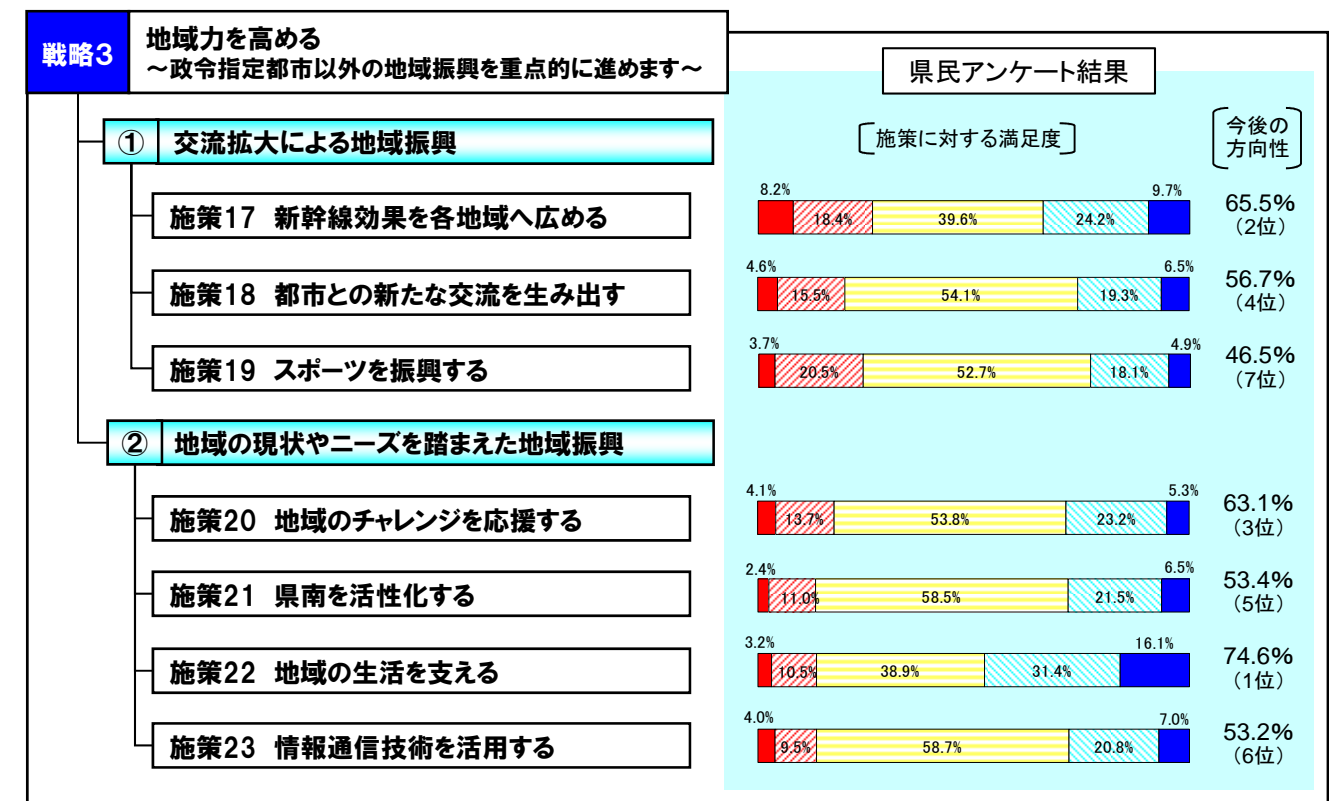
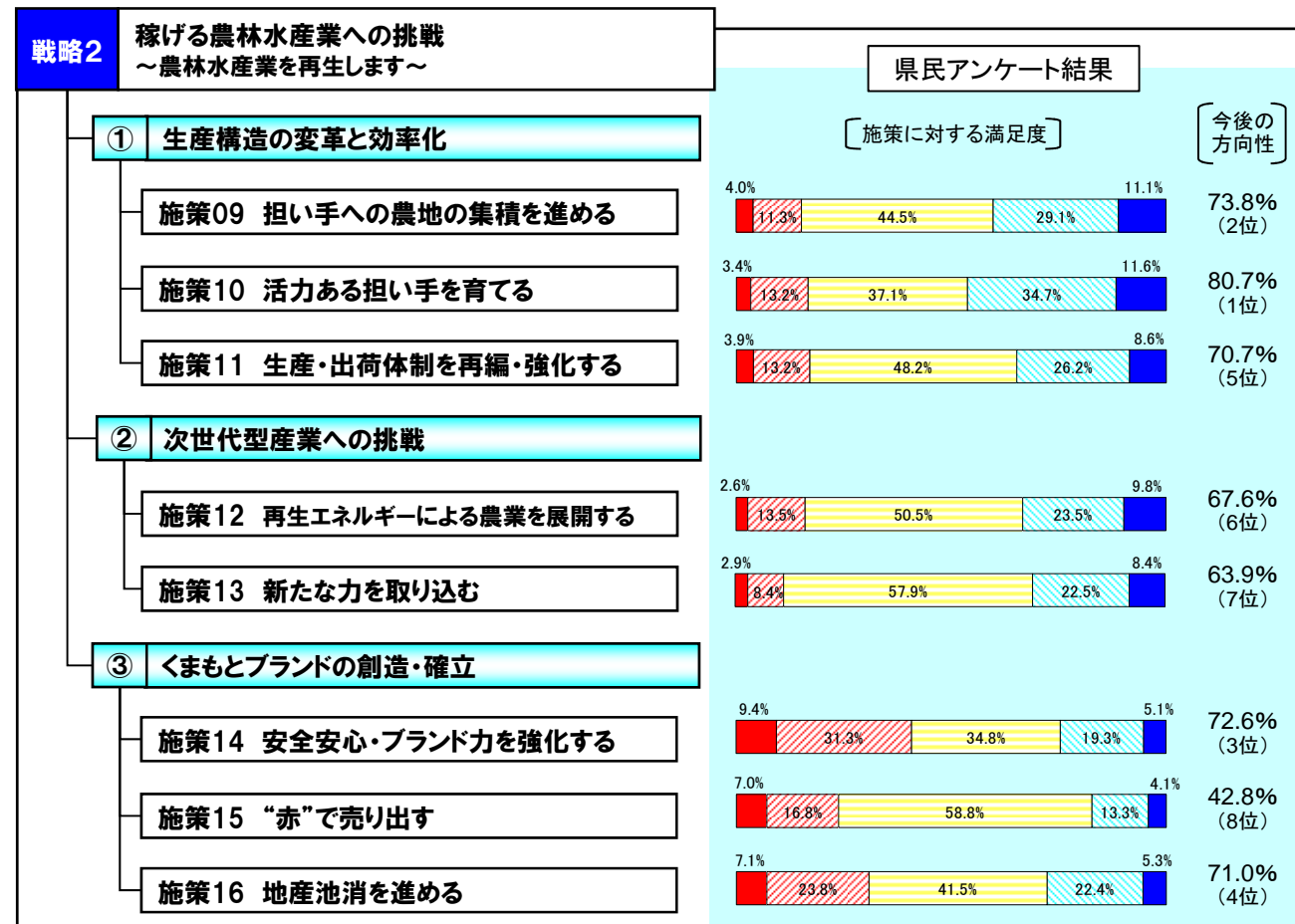
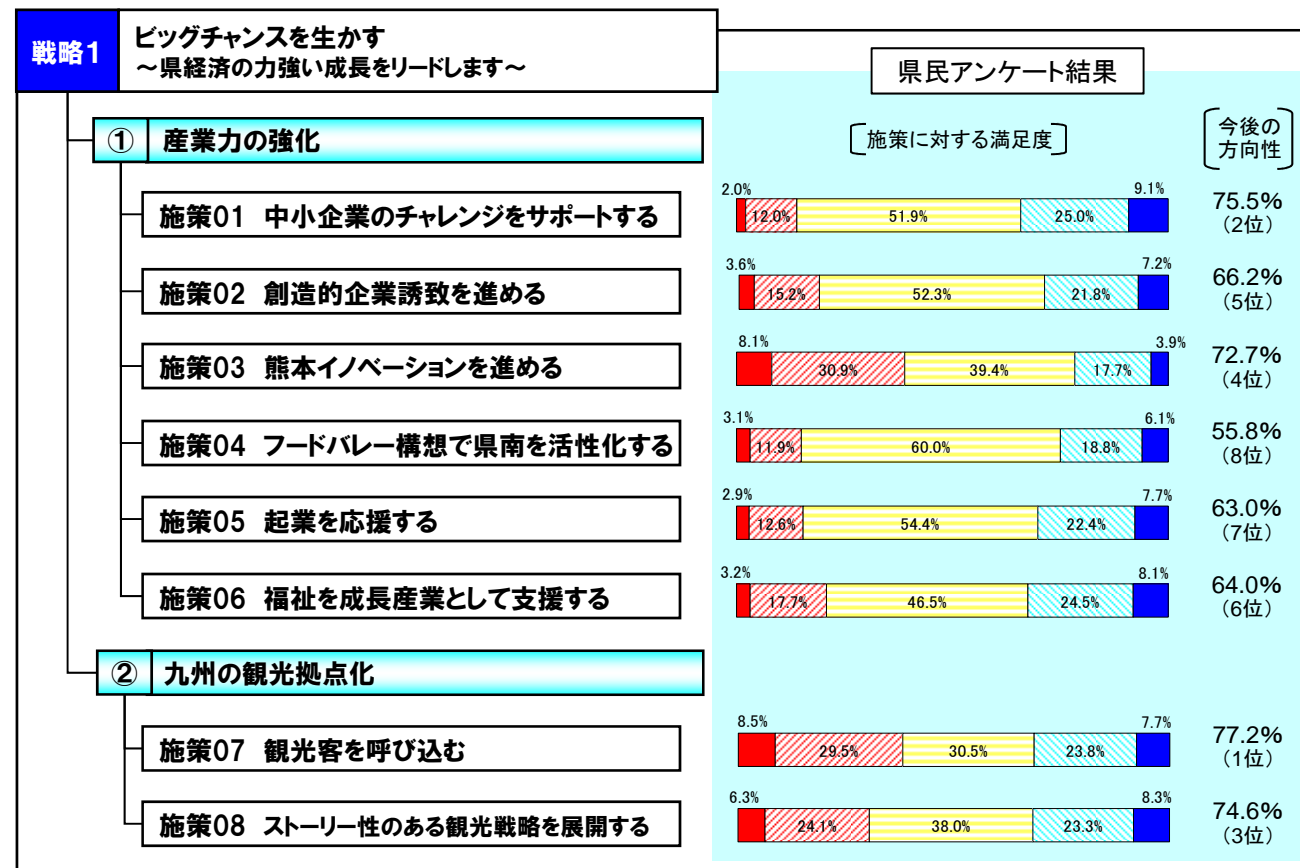


(総括評価表 I)

“活力を創る”～「活力溢れる元氣なくまもと」をめざします～

1 実現に向けて推進する戦略



※県民アンケート(「幸せ実感くまもと4カ年戦略」に関する意識調査)結果について

「施策に対する満足度」  
次の5段階で示したもの。

「今後の方向性」  
各施策の今後の方向性として、「もっと力を入れて取り組んでほしい」と回答した人の割合を示したもの。  
《( )内は同施策の戦略内での順位》。

■ 満足 □ やや満足 □ どちらでもない □ やや不満 ■ 不満

## 2 戦略指標の動向

※下表の「指標の動向」欄及び「達成状況」欄は目標値の種類に応じて次により整理。

目標値の種類	「指標の動向」	「達成状況」
戦略策定時から最終年度までの累計値で見ていく指標		☆
最終年度(単年)の実績値で見ていく指標		★

指標	戦略策定時(年度)	評価時(H25年度)	単位	指標の動向	目標値(H27年度)	種類	達成状況	
戦略1	リーディング企業育成数	1社(H23)	3	社		20~30社	累計	
	企業立地件数	91件/4年(H20~H23)	30	件		100件/4年(H24~H27)	累計	
	企業立地による新規雇用予定者数	5,299人/4年(H20~H23)	1,213	人		5,500人/4年(H24~H27)	累計	
	【補】新たな材料(有機薄膜、熊大Mg等)を活用した商品の市場化件数	0件(H23)	2	件		10件	累計	
②	観光客総数	5,723万人/年(H22)	5,920	万人		6,000万人/年	単年	
	延べ宿泊者数	647万人/年(H22)	663	万人		750万人/年	単年	
	【補】くまモンツイッターフォロワー数	5万人(H23)	19	万人		15万人	累計	☆
戦略2	認定農業者や地域営農組織等へ集積する農地面積	—	1,780	ha		8,400ha/4年(H24~H27)	累計	
	新規就業者数(新規就農者+雇用就農者)+新規林業就業者+新規漁業就業者	414人/年(H22)	561	人		526人/年	単年	★
	【補】モデル産地でのPGCの効果(水稲のコスト(水稲経営費)削減)	86,194円/10a(H22)	85,727	円/10a		68,000円/10a	単年	
	木質バイオマス加温機の導入台数	4台(H23)	64	台		170台	累計	
	② 農業への参入法人数	50法人(H22)	71	法人		100法人	累計	
	林建連携数(林建連携協定締結数)	35社(H22)	40	社		60社	累計	
③	くまもとグリーン農業に取り組む農業者	2,844戸(H23)	6,876	戸		23,000戸	累計	
	県産農林水産物の認知度* <※「くまもとの赤」の認知度>	—	16.5	%		35%	単年	
戦略3	県内の主要な都市農村交流促進施設の年間来訪者数	531万人/年(H22)	567	万人		590万人/年	単年	
	① 新幹線利用者数(新幹線4駅の乗降客数)	637万人/年(推計値)	657	万人		670万人/年	単年	
	【補】ロアッソ熊本ホームゲーム1試合平均入場者数	6,928人(H23)	5,855	人		前年度の平均入場者数を上回る	単年	
②	【補】地域づくりチャレンジ推進事業(4分野)の実施件数	74件/年(H23)	52	件		80~100件/年	単年	
戦略4	① 県内への新エネルギー導入量(原油換算)	32万kL/年(H22)	37	万kL/年		40万kL/年	単年	
	【補】木質バイオマス加温機の導入台数<再掲>	4台(H23)	64	台		170台	累計	
	【補】メガソーラーの設置数	2件(H23)	23	件		10件	累計	☆
	【補】住宅用太陽光発電設備の設置率	5.63% 全国2位(H22)	8.88 全国2位	%・全国順位		全国1位	単年	
	② 県のエネルギー消費量(将来推計値)からの削減量(原油換算)	—	13	万kL/年		18万kL/年	単年	
【補】熊本県ストップ温暖化県民総ぐるみ運動推進会議の会員(団体)数	304会員(H23)	345	会員		600会員	累計		

\*「県産農林水産物の認知度」は戦略策定時との比較ができないため、「指標の動向」を暫定的にで表現しています。

## 3 平成24年度の主な成果・今後の課題や方向性

○：平成24年度の主な成果  
●：今後の課題や方向性

### 【戦略1】ビッグチャンスを生かす

- リーディング企業(付加価値10億円以上)が3社に増加。
- 25カ所の電気自動車用充電器設置、有機薄膜の2件の商品化や次世代マグネシウム合金の8件の試作品開発等、新たな産業の展開が進展。
- 創造的企業誘致の推進により、6件の研究開発部門を含む30件の立地件数を達成。
- 「食」関連産業の振興を通じた県南地域の活性化をめざす「くまもと県南フードバレー構想」を策定。
- 7月に「ようこそくまもと観光立県推進計画」を策定し、熊本を起点とした九州の周遊ルート開発や、阿蘇を中心としたキャンペーン等を展開。熊本広域大水害により減少した観光客数が12月以降に前年並みまで回復。
- くまモンはツイッターのフォロワー数が19万人を超え、全国的な認知度と人気を獲得。
- 金融機関・経営支援機関の連携による支援を通じた中小企業の経営力の強化や、複雑化する経営課題への対応。
- 次世代自動車の普及に向けた環境整備、有機薄膜と次世代マグネシウム合金の早期の事業化・市場化。
- 誘致活動の磨き上げや企業が最先端のものづくりに取り組める開発環境の構築。
- 「くまもと県南フードバレー推進協議会」会員のニーズを反映した事業展開や仕組みづくり。
- 九州周遊の促進に向けた隣県等との連携。

### 【戦略2】稼げる農林水産業への挑戦

- 農地集積面積が前年より3割増の1,780haとなり、農地集積の加速化の兆し。また、意欲ある農業者等を対象とした「くまもと農業アカデミー」を設立し、受講が859件となるなど、担い手の育成も進展。
- 木質バイオマス燃料の生産・供給を開始するとともに、モデル地域に60台の加温機を実証導入。
- 農商工連携等の事業者による新商品から販路開拓に至った件数は62件。また、農業への新規参入は21件。
- 「くまもとグリーン農業」が大幅増(販売コーナー31店舗、生産宣言約7,000件、応援宣言約3,000件)。
- 梨「秋麗」の光センサー選果体制整備、栗「ぼろたん」の本格販売開始、「トルコギキョウ」の23万本出荷、「クマモト・オイスター」の約8千個の試験販売など、「くまもとイチ押しブランド」が着実に進展。米の食味ランキングで「森のくまさん」が最高評価。「くまもとの赤」の統一ブランドイメージの発信に向け199品の加工品を登録。
- 農地集積の加速化に向けた受け手、出し手及び関係機関との密な連携や既存営農組織の法人化促進。また、農業アカデミーのカリキュラム充実、県内全域での就農研修機関の設置等による担い手の確保・育成。
- 木質バイオマス燃料のコスト低減・品質確保・安定供給。
- 6次産業化や商工業連携による農産加工拡大等への継続支援。また、農業参入企業への継続支援。
- 「グリーン農業」の認知度の向上、通信販売などの多様なニーズへの対応した「マーク」表示の拡大。
- こだわりのある品質管理体制整備によるトップグレードの産品づくり。また、民間と連携した「くまもとの赤」の認知度向上の取組み。

### 【戦略3】地域力を高める

- 各地域でのおもてなしの機運を醸成するため、13件の取組みに対する助成を実施。
- 都市と農山漁村の交流に取り組む市町村等(17団体)の支援により集落等が活性化し、農業者の意欲が向上。
- 県民とロアッソ熊本との交流拡大のため、サッカー教室及び交流会を5回開催し、202名参加。
- 県内4カ所[県北、県央、県南、天草]に広域本部を設置。政令指定都市以外の地域振興など広域的な取組みの推進や、機動性及び専門性の向上を図る体制を強化。
- 県南活性化に向けた八代港の水深14m岸壁第1バース及び泊地整備が完成。水俣・芦北地域では、「水俣・芦北地域雇用創造協議会」を中心とした取組みの展開により、148人の新たな雇用を創出。また、五木村では年間観光客総数15万人を達成したほか、宮原五木線の頭地大橋を含む区間を供用開始し、住民の利便性が向上。
- 「選ばれる観光地」となるための県民総参加によるおもてなしの向上。
- 合意形成に時間を要する地域づくりの取組み等への支援のあり方の検討。
- 八代港の整備促進、地元根付いた五木村の産業振興と雇用創出。
- 買い物弱者問題等の解決に向けたソーシャルビジネスの立ち上げ展開、バス路線の再編等による利便性の向上。
- 事業者等と連携した地域におけるICT活用ニーズの把握やICT活用モデルの県内各地域への普及・推進。

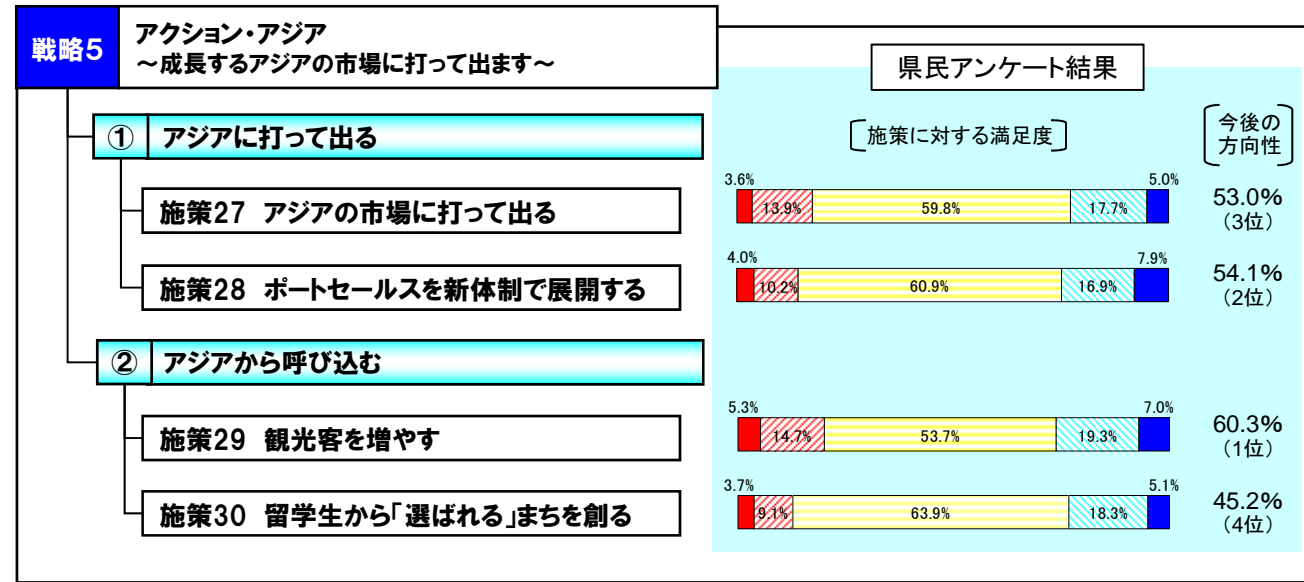
### 【戦略4】未来型エネルギーのトップランナー

- 南阿蘇村で売電モデル第1号となる小水力発電所の建設準備が進展。太陽光発電をビニールハウスや養殖イカダに活用する実証事業を実施。
- 地域と産学官が連携した「熊本県地熱・温泉熱研究会」を設立。小国町で2件の温泉熱発電事業化の検討を開始。
- 23件のメガソーラーの立地が決定し、発電出力は82メガワット。
- ストップ温暖化県民総ぐるみ運動推進会議の会員数が345へと着実に増加。また、住宅向け76件、中小企業等向け16件にスマートメーターやLED照明などの導入を補助。
- 小水力発電への県内企業・団体等の参画促進。施設園芸・海面養殖で使用可能な太陽光発電の製品化推進。
- 地熱・温泉熱研究会を通じた地域住民や温泉関係者との合意形成。
- 半導体関連産業の集積や地域資源(エネルギー・地域企業・人等)を活かしたエネルギー関連産業の県内への立地促進や、地域企業のエネルギー関連産業への進出支援。
- 中小企業や住宅の省エネ設備の導入支援やスマートメーター等の導入による節電効果の「見える化」。

(総括評価表Ⅱ)

“アジアとつながる”～「アジアの中で存在感のあるくまもと」をめざします～

1 実現に向けて推進する戦略



※県民アンケート(「幸せ実感くまもと4カ年戦略」に関する意識調査)結果について

「施策に対する満足度」  
次の5段階で示したものを。

「今後の方向性」  
各施策の今後の方向性として、「もっと力を入れて取り組んでほしい」と回答した人の割合を示したものを。  
《( )内は同施策の戦略内での順位》。

2 戦略指標の動向

※下表の「指標の動向」欄及び「達成状況」欄は目標値の種類に応じて次により整理。

目標値の種類	「指標の動向」	「達成状況」
戦略策定時から最終年度までの累計値で見ていく指標	↑	☆
最終年度(単年)の実績値で見ていく指標	→	★

指標	戦略策定時(年度)	評価時(H25年度)	単位	指標の動向	目標値(H27年度)	種類	達成状況
① アジア地域への輸出及び進出を行っている県内企業・農業団体等の数(中国)	延べ57(H23)	66	延べ数	↑	延べ86	累計	
	延べ27(H23)	33	延べ数	↑	延べ40		
	延べ16(H23)	21	延べ数	↑	延べ23		
延べ外国人宿泊者数	33万人/年(H22)	30	万人	→	60万人/年	単年	
② うちアジアからの延べ外国人宿泊者数	30万人/年(H22)	28	万人	→	55万人/年	単年	
留学生の数	575人/年(H23)	655	人	→	1,000人以上/年	単年	

3 平成24年度の主な成果・今後の課題や方向性

【戦略5】アクション・アジア

- 中国・広西壮族自治区の南寧市に熊本広西館を設置。上海事務所とあわせて中国における拠点として、熊本～南寧のチャーター便造成、定期便の整備等を含めた覚書の締結など、県内企業の中国展開を支援。
- 台湾にビジネスアドバイザーを新たに配置。また、台湾とのチャーター38便を実現。
- シンガポール、香港のビジネスアドバイザーや輸出促進アドバイザーの支援などを通じ、アジア地域への輸出及び進出を行っている県内企業等が着実に増加。
- 熊本港、八代港のコンテナ取扱数量が前年比16%増加し、物流が促進。熊本港のガントリークレーンの供用開始や週2便体制の実現などが寄与。
- 延べ外国人宿泊者数が対前年比31.9%増となる30万人に回復。特に東アジアは、韓国：172,313人(全国第5位、対前年比+15.5%)、台湾：66,184人(対前年比+279.5%)、香港：13,215人(対前年比+83.0%)、中国：16,429人(対前年比+30.5%)と大幅に増加。
- 県、熊本市、熊本大学及び経済界のトップが集う「くまもと都市戦略会議」で「留学生支援のためのワンストップ窓口の設置」等を検討し、H25年度から共同事業の実施が決定。また、大学コンソーシアム熊本等との共催による留学生向け就職説明会に県内企業等19社と留学生132人が参加。
- 生産者向けの専門的相談・助言体制づくりや商談機会の創出による県産農林水産物の輸出拡大。
- 熊本港及び八代港のコンテナ取扱量が両港で30,000TEUとなるよう、地元市、港湾関係企業等との協力体制の構築や航路の維持・拡充。(※TEU：twenty-foot equivalent unit、20フィートコンテナ換算)
- 中国・台湾との定期線の就航、熊本～ソウル線の週5便化、天草エアラインを活用した海外観光客誘致等の実現に向けた継続的な取組み推進。
- 九州各県や関係機関との連携による「オール九州」の視点に立った情報発信。
- 留学生支援ワンストップ窓口の設置、留学生ネットワークの構築等を通じた留学生が住みやすく、学びやすい環境の実現。



## 《参考:取組等の模様》

### “活力を創る”



〔戦略1〕全国CMIに初出演するくまモン



〔戦略2〕くまもと農業アカデミー(農産加工)



〔戦略3〕クルーズ船入港時に開催された3市連携(八代・人吉・水俣)による広域物産展(八代港)



〔戦略4〕メガソーラー(南関町)

### “安心を実現する”



〔戦略6〕認知症サポーター活動の活性化(声かけ・通報模擬訓練)



〔戦略7〕家庭的保育



〔戦略8〕障がい者福祉施設商品展示・商談会



〔戦略9〕繁華街クリーンアップ大作戦一斉パレード



〔戦略10〕「熊本県災害派遣福祉チーム(熊本DCAT)の派遣に関する協定」締結式

### “百年の礎を築く”



〔戦略11〕熊本港のガントリークレーン



〔戦略13〕水銀条約外交会議熊本県推進協議会



〔戦略12〕「あそ千年祭」での草わらを使った草アートの準備風景



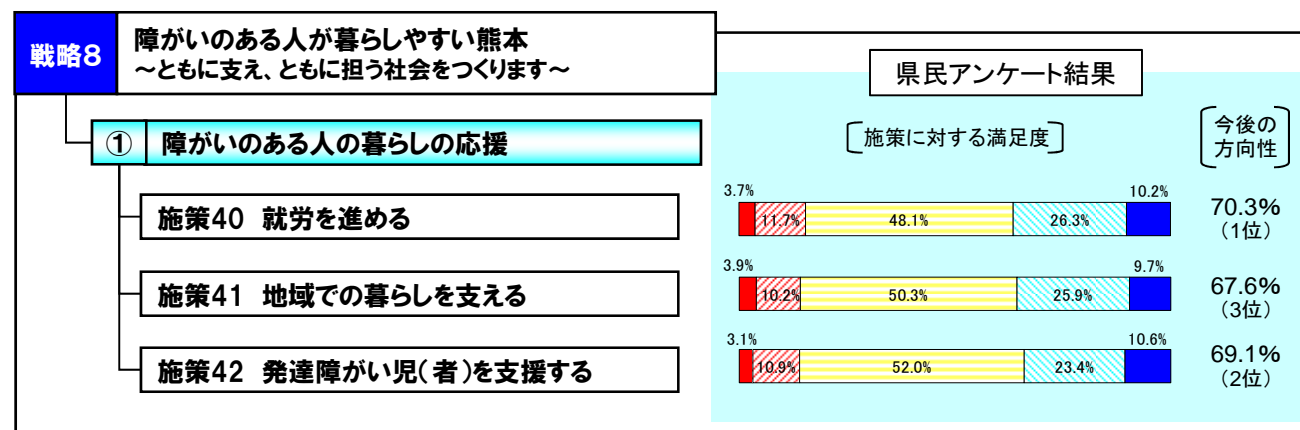
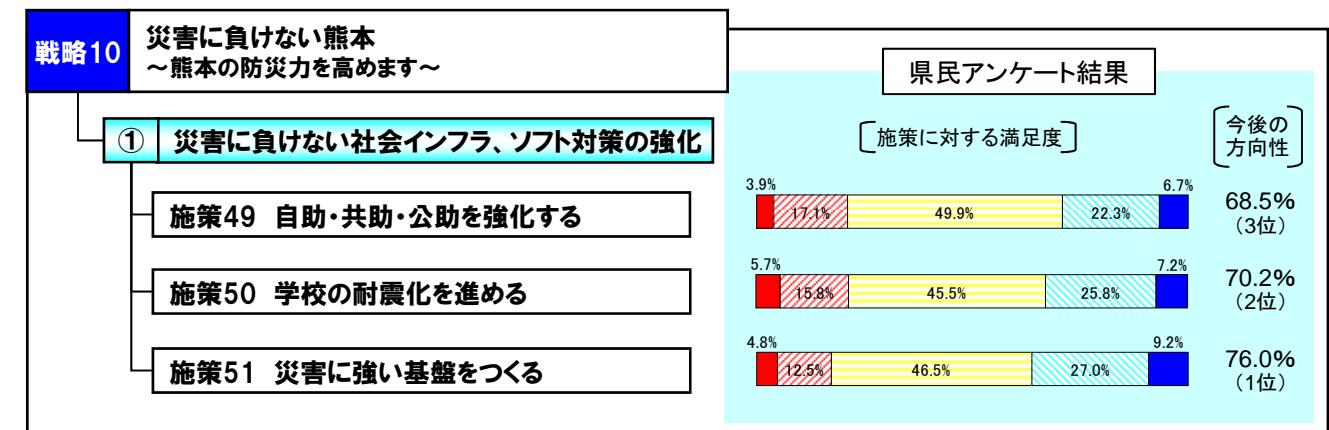
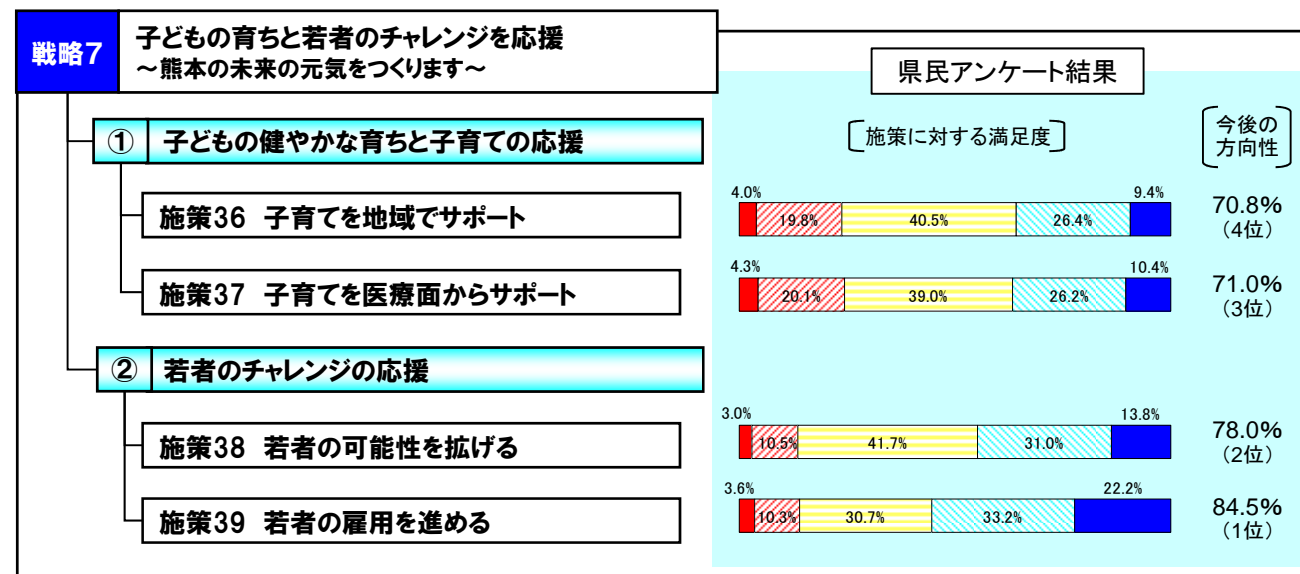
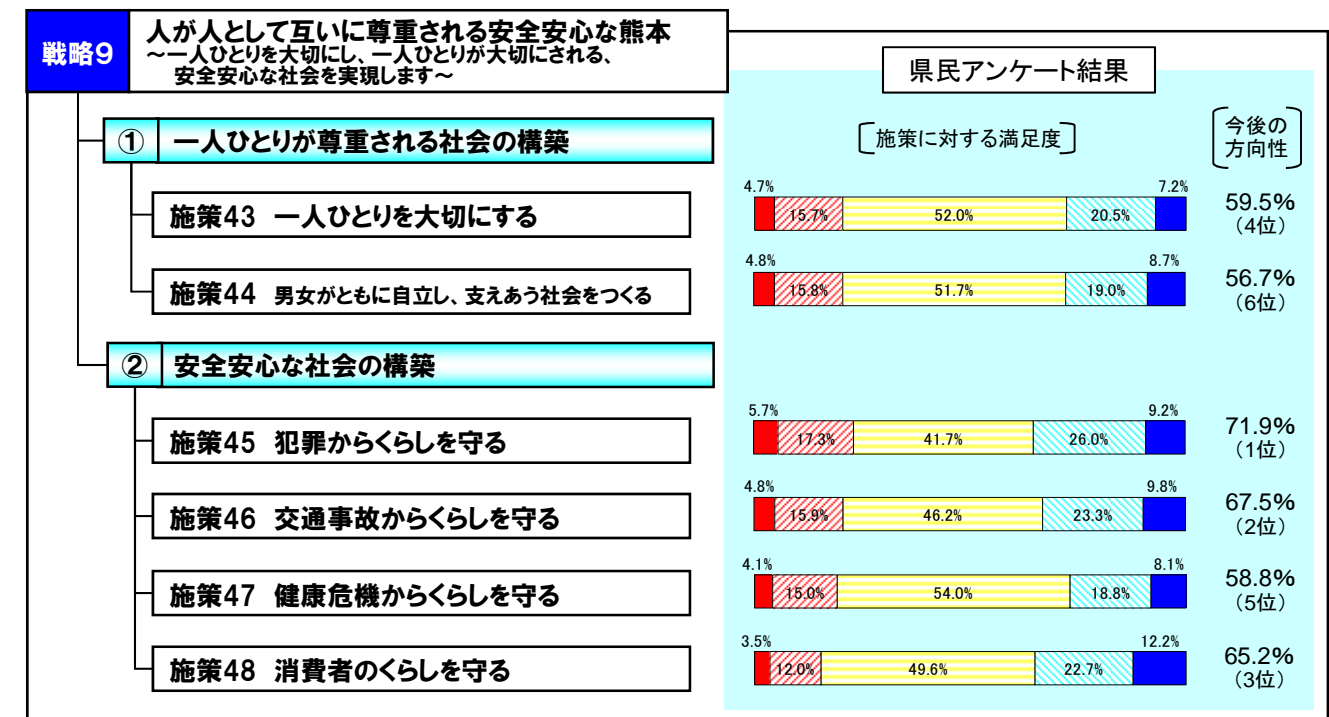
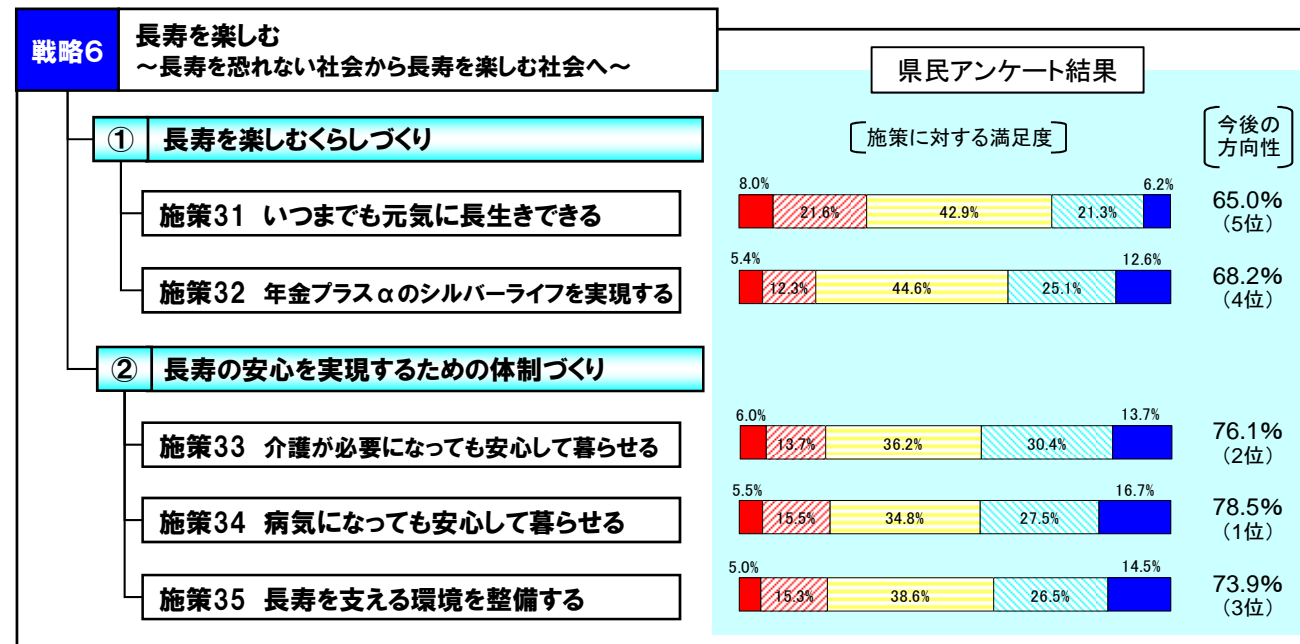
〔戦略14〕外国人留学生のための就職合同説明会



〔戦略15〕くまモンを師範とした親子運動教室

(総括評価表Ⅲ) “安心を実現する”～「いつまでも楽しく、元気で、安心して暮らせるくまもと」をめざします～

1 実現に向けて推進する戦略



※県民アンケート(「幸せ実感くまもと4カ年戦略」に関する意識調査)結果について

「施策に対する満足度」  
次の5段階で示したものを。

■ 満足 □ やや満足 □ どちらでもない □ やや不満 ■ 不満

「今後の方向性」  
各施策の今後の方向性として、「もっと力を入れて取り組んでほしい」と回答した人の割合を示したものを。  
《( )内は同施策の戦略内での順位》。

## 2 戦略指標の動向

※下表の「指標の動向」欄及び「達成状況」欄は目標値の種類に応じて次により整理。

目標値の種類	「指標の動向」	「達成状況」
戦略策定時から最終年度までの累計値で見ていく指標		☆
最終年度(単年)の実績値で見ていく指標		★

指標	戦略策定時(年度)	評価時(H25年度)	単位	指標の動向	目標値(H27年度)	種類	達成状況	
戦略6	地域の縁がわ箇所数	276か所(H23)	380	か所		500か所	累計	
	① シルバーインストラクター登録人数	—	38	人		120人	累計	
	認知症サポーター活動が活性化している市町村数	12市町村(H23)	27	市町村		45市町村	累計	
	② 訪問看護ステーションがある市町村数	31市町村(H23)	31	市町村		45市町村	累計	
【補】県内の自治体病院における常勤医師数	316人(H23)	318	人		336人	累計		
戦略7	放課後児童クラブの実施市町村数	39市町村(H23)	40	市町村		41~45市町村	累計	
	① 保育所入所待機児童数	194人(H23)	582	人		0人	単年	
	住民が病児・病後児保育のサービスを利用できる市町村	20市町村(H23)	25	市町村		45市町村	累計	
	【補】くまもと子育て応援の店・企業登録数	2,442件(H23)	2,708	件		3,200件	累計	
	就職支援を希望する高卒未就職者の就職決定率	97.4%(H23)	100	%		100%	単年	★
	② ジョブカフェ利用者における就職決定数	1,782人/年(H23)	1,912	人		2,100人/年	単年	
【補】若者サポートステーション進路決定者数	291人/年(H23)	434	人		400人/年	単年	★	
戦略8	障がい者の日中活動系サービスの利用量(定員数)	8,709人/日(H23)	9,785	人/日		9,500人/日	単年	★
	① 発達障がい早期発見のための問診票を用いた健診の実施市町村数	9市町村(H23)	45	市町村		45市町村	累計	☆
	障がい者の就職件数	1,265人/年(H23)	1,558	人		1,600人/年	単年	
戦略9	民間企業における管理職(係長以上)に占める女性の割合	23.4%(H23)	24.6	%		26.0%	単年	
	① 【補】自殺予防ゲートキーパー養成者数	240人(H23)	422	人		840人	累計	
	【補】県の審議会等における女性委員の登用率	37.2%(H23)	37.1	%		40%	単年	
	【補】育児参加に係る休暇を取得した男性職員の割合	76.7%(H22)	83.5	%		100%	単年	
	街頭犯罪を中心とした14罪種の認知件数	10,423件/年(H20~H23平均)	8,400	件		過去4年間の平均認知件数を下回る	単年	★
	② 24時間交通事故死者数	86人(H23)	82	人		56人以下	単年	
交通事故死傷者数	13,524人(H23)	12,555	人		11,000人以下	単年		
消費生活相談ネットワーク体制整備市町村数	10市町村(H23)	23	市町村		45市町村	累計		
戦略10	自主防災組織率	55.2%(H23)	61.6	%		80%	単年	
	県立学校の耐震化率	83.1%(H23)	93.1	%		100%	単年	
	① 市町村立小中学校施設の耐震化率	82.8%(H23)	94.4	%		100%	単年	
	私立学校施設の耐震化率	58.9%(H23)	62.5	%		75%	単年	
	【補】県防災情報メールサービスの登録件数	21,355人(H23)	25,033	人		40,000人	累計	

## 3 平成24年度の主な成果・今後の課題や方向性

○：平成24年度の主な成果  
●：今後の課題や方向性

### 【戦略6】長寿を楽しむ

- フッ化物洗口実施率が、保育所・幼稚園で55.6%（H23:48.6%）、小中学校で3.8%（H23:1.1%）に上昇。
- 地域の縁がわが104カ所増えて380カ所となり、地域の交流を促進。
- 認知症サポーターが16万5千人を超え、人口比で4年連続日本一。サポーターの活動が活性化している市町村数が27団体に増加。
- 阿蘇、芦北、天草圏域の訪問看護ステーションに訪問看護師等8人を確保。熊本大学寄附講座から医師25名を派遣。
- かかりつけ医の研修、「火の国あんしん受診手帳」試行運用等を実施し、認知症医療体制の3層化が進展。
- 医療・介護等が連携した在宅医療提供体制整備、特に24時間体制の確保、県内全域での訪問看護提供体制整備、在宅医療・看取りなどに関する普及啓発等。
- 3層の認知症医療体制における、2層目（地域拠点型センター、専門医）の専門性及び3層目（かかりつけ医）の認知症対応力の更なる向上、2層目と3層目の連携強化。

### 【戦略7】子どもの育ちと若者のチャレンジを応援

- 保育所入所児童数が911人増加。放課後児童クラブ実施は40市町村・329カ所に増加。
- 病児・病後児保育の実施は25市町村・25カ所に増加。
- キャリア教育応援団登録事業所数が1,549に増加。若者サポートステーションも4カ所に増加。利用者の進路決定が434人となり目標値を達成。
- ジョブカフェへの専任コーディネーターの配置等により、利用者の就職決定数が着実に増加。
- 施設整備等に併い顕在化する入所希望児童数の増加も見据えた計画的な保育所整備や県ガイドラインに沿った放課後児童クラブの質の向上と量の充実。
- 病児・病後児保育の実施場所の増加。
- キャリア教育の充実に向けた産業界の支援の促進。
- 高卒未就職者の就職に必要な基本的ビジネススキル等の習得や県内中小企業等とのマッチングの推進。

### 【戦略8】障がいのある人が暮らしやすい熊本

- ハローワークを通じた障がい者就職件数は1,558件に増加。
- 創設・改修、一般住宅等の借上げへの補助により、グループホーム等の定員が126人分増加。
- 発達障がい者支援に係る課題の整理を行い、今後の取り組むべき方向性を明確化。1歳6カ月児健診、3歳児健診で発達障がいに気づくための問診票及びアドバイスのマニュアルを作成し、保健師のスキルアップに寄与。
- ハローワークを通じた障がい者の就職件数の増加に向けた地域協議会等の設置、総合的な就労支援を展開。
- 地域生活への移行を促進するためのグループホーム・ケアホームの整備推進。
- 乳幼児期に関わる専門職の早期発見・早期支援の資質向上及び保護者に対する子育て支援の充実。

### 【戦略9】人が人として互いに尊重される安全安心な熊本

- 中学校・高校での「命の大切さを学ぶ教室」の開催や182人の「ゲートキーパー」養成等、自殺対策が進展。
- 刑法犯認知件数が13,104件（前年比▲941件、▲6.7ポイント）と9年連続で減少。
- 飲酒運転人身事故や高齢者による交通事故が件数、死傷者数ともに前年より減少。
- 熊本広域大水害発生時に、感染症や食中毒の未然防止に向け迅速に対応。
- 県内14市すべてが消費生活センター、31町村すべてが相談窓口を設置。
- 自殺対策行動計画に基づく関係機関が連携した取組推進。
- 防犯ボランティア団体等、民間との連携協働の推進や協働パトロール・街頭活動の強化。
- 交通安全に対する意識向上、交通事故の死傷者数の減少傾向を維持する取組みの実施。
- 国・市町村及び関係機関との連携による新型インフルエンザ等対策の推進。
- 市町村ごとの消費者行政・相談体制状況の把握を通じた適切な支援策の実施。

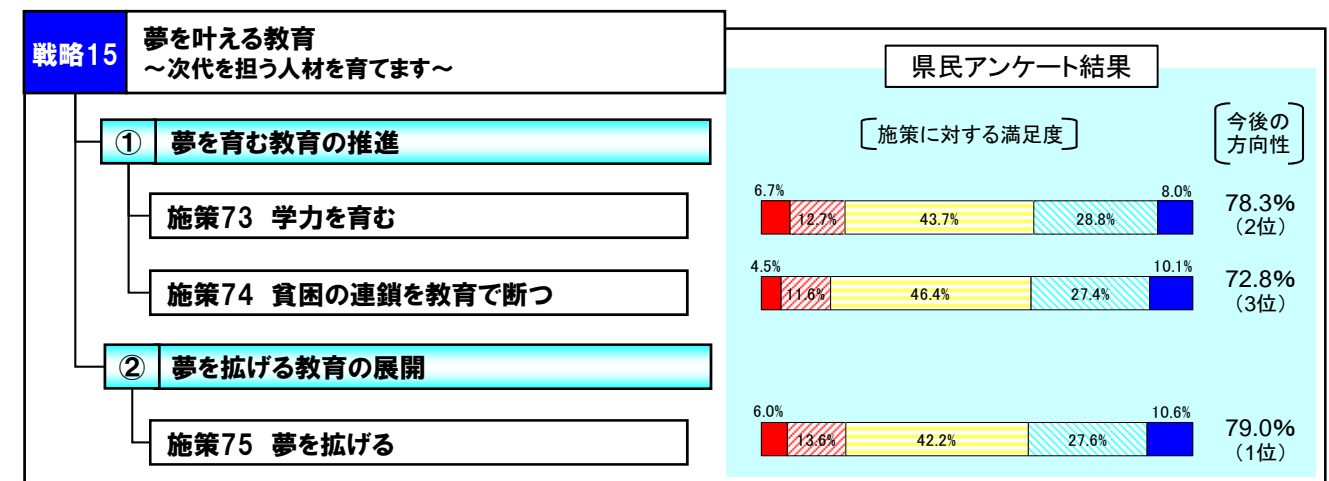
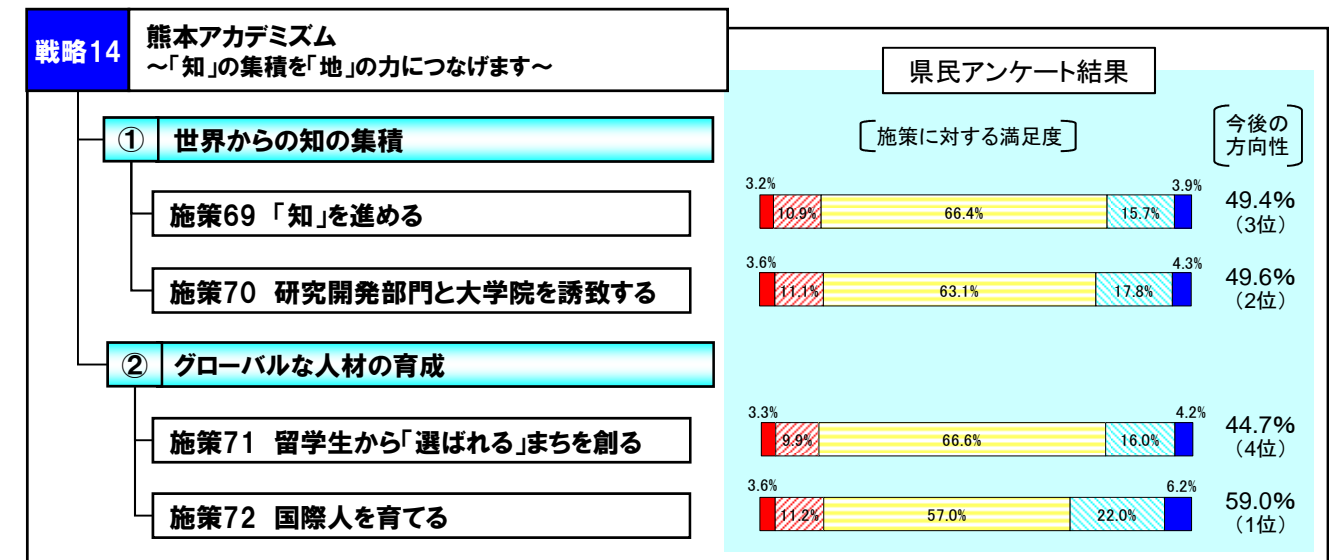
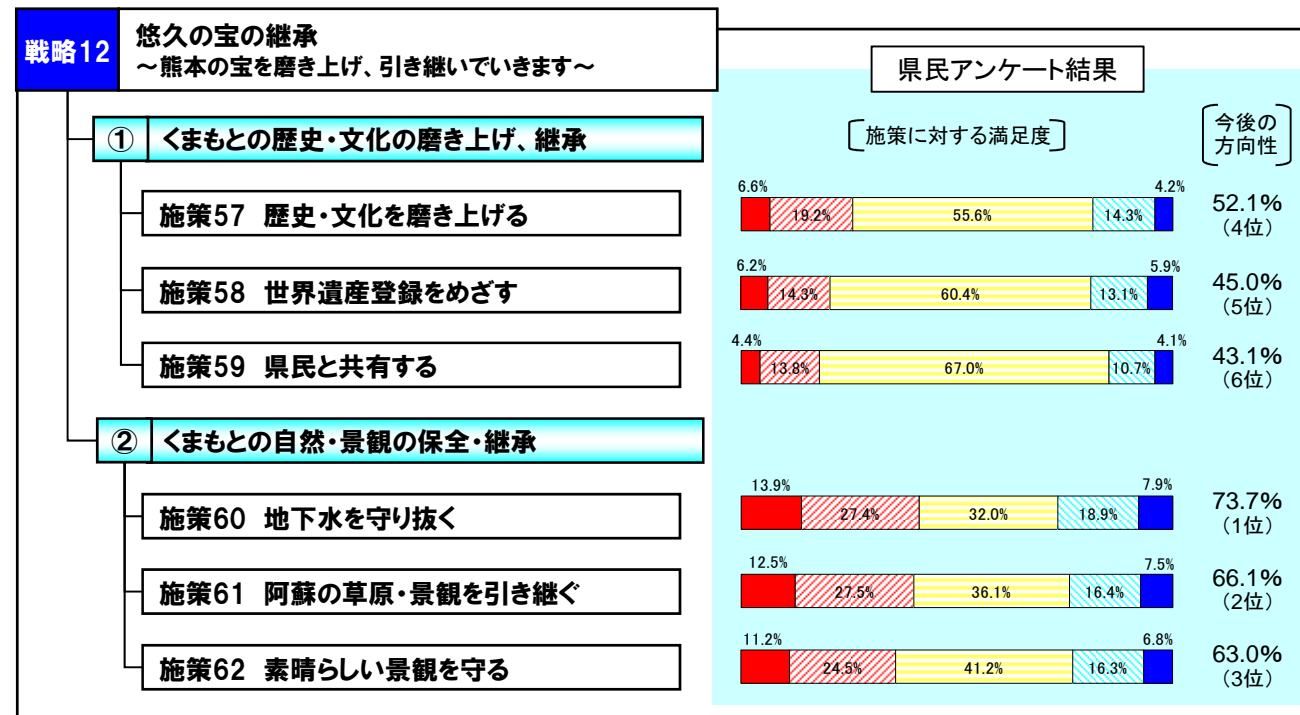
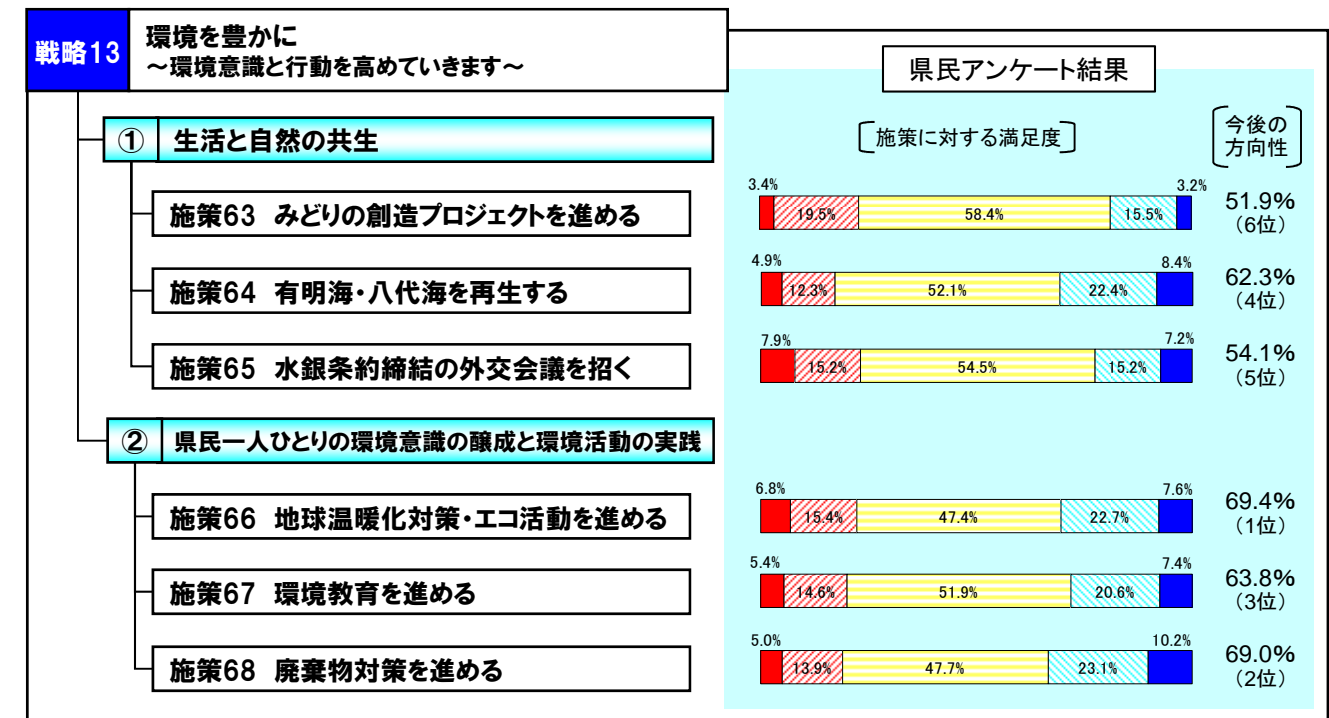
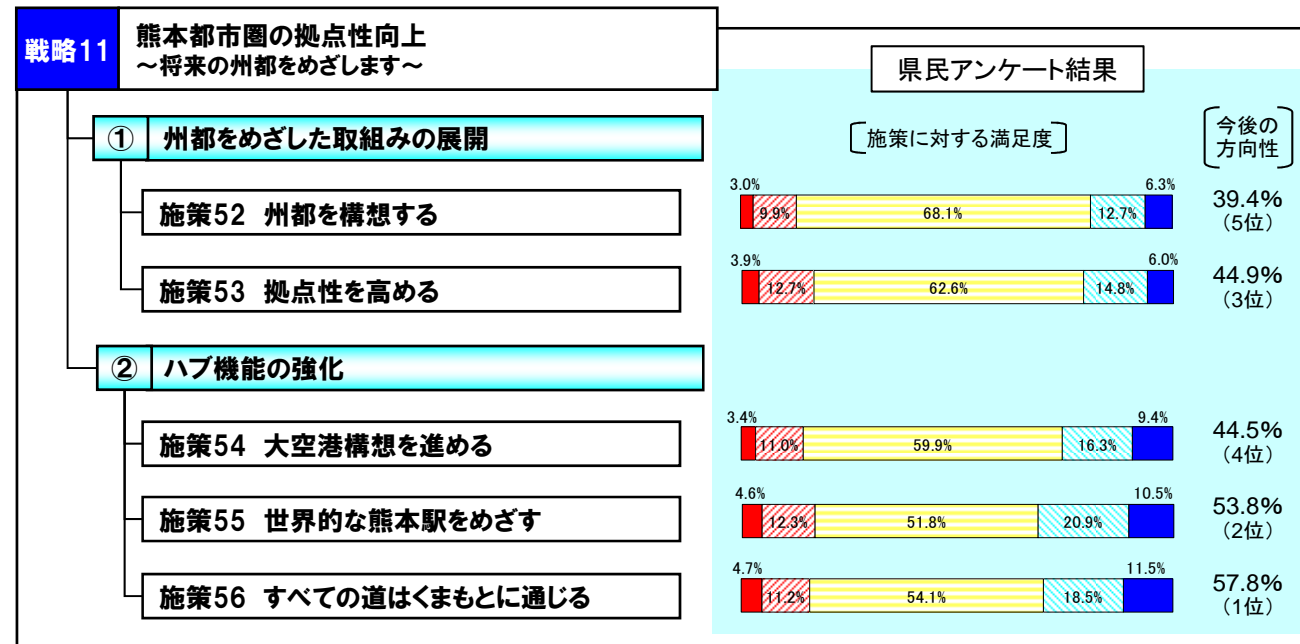
### 【戦略10】災害に負けない熊本

- 防災情報メールサービス等のシステム改修等により、県民への迅速・正確な情報提供体制を整備。
- 自主防災組織率の前年度比伸び率が全国平均を上回って上昇。
- 災害時要援護者避難支援計画（個別計画）を38市町村で策定。福祉避難所を212施設設置。
- 災害派遣福祉チーム「熊本DCAT」を創設し、高齢者・障がい者支援7団体との協定締結。
- 熊本広域大水害を受け、災害関連緊急治山事業の着手や白川水系での概ね5年間の緊急的な河川改修の実施が決定。防災拠点等への自立・分散型エネルギーシステムの導入推進の補助事業を創設。
- 防災情報メールサービス登録者数40,000人、全市町村での緊急速報メール運用に向けた取組推進。
- 県民の防災意識の向上、人材の育成・活用、自主防災組織支援等の取組みの継続。
- 災害時要援護者避難支援計画（個別計画）策定及び福祉避難所の未策定、未設置市町村への働きかけ。
- 発災後速やかに熊本DCATを派遣し、要援護者をケアできる体制を平常時から整備。
- 消防体制強化のあり方や新たな広域化の方向性を検討。
- 社会基盤施設の計画的な更新整備と適切な管理のための管理者との密な連携。再生可能・未利用エネルギーの活用促進や環境負荷の小さいまちづくりの促進。

(総括評価表Ⅳ)

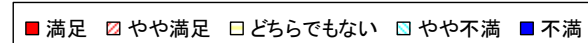
“百年の礎を築く”～「誇りを持ち、夢の実現に挑戦するくまもと」をめざします～

1 実現に向けて推進する戦略



※県民アンケート(「幸せ実感くまもと4年戦略」に関する意識調査)結果について

「施策に対する満足度」  
次の5段階で示したもの。



「今後の方向性」  
各施策の今後の方向性として、「もっと力を入れて取り組んでほしい」と回答した人の割合を示したもの。  
( )内は同施策の戦略内での順位。

## 2 戦略指標の動向

※下表の「指標の動向」欄及び「達成状況」欄は目標値の種類に応じて次により整理。

目標値の種類	「指標の動向」	「達成状況」
戦略策定時から最終年度までの累計値で見ていく指標		☆
最終年度(単年)の実績値で見ていく指標		★

指標	戦略策定時(年度)	評価時(H25年度)	単位	指標の動向	目標値(H27年度)	種類	達成状況	
戦略11	① 県・熊本市の政策連携協定数 (熊本県・熊本市政策連携会議で承認された取組み数)	—	5	項目		毎年度着実に増加を図る	累計	
	阿蘇くまもと空港の利用者数	279万人/年(H23)	285	万人		300万人/年	単年	
	熊本駅の乗降客数	893万人/年(推計値)	920	万人		920万人/年	単年	★
	幹線道路の整備進捗率(供用率)	41.5%(H23)	41.5	%		50.0%	単年	
戦略12	文化施設の利用者数	94.8万人/年(H23)	102.9	万人		100万人/年	単年	★
	世界文化遺産登録に関連する資産の国指定(選定)件数	5か所(H23)	11	か所		14か所	累計	
	【補】松橋収蔵庫フィールドミュージアム事業における参加者数	1万人/年(H23)	1.6	万人		2万人/年	単年	
	【補】細川コレクション 永青文庫展示関係の入場者数	3万人/年(H23)	4.3	万人		4万人/年	単年	★
	熊本地域の地下水涵養増加量 (白川中流域水田湛水事業等による涵養量)	2,065万㎡(H23)	1,675	万㎡		3,600万㎡	単年	
	② 【補】景観行政を行う市町村数	7市町村(H23)	7	市町村		16市町村	累計	
【補】野焼き・輪地切りボランティア参加者数	2,137人/年(H22)	2,103	人		3,137人/年	単年		
戦略13	① 有明海・八代海の水質基準の達成度(COD)	72.2%(H22)	72.2	%		100%	単年	
	有明海・八代海の水質基準の達成度(全窒素・全リン)	83.3%(H22)	83.3	%		100%	単年	
	② 一般廃棄物排出量	57万9千トン/年(H21)	55.7	万トン/年		57万2千トン以下/年	単年	★
	【補】熊本県ストップ温暖化県民総ぐるみ運動推進会議の会員(団体)数<再掲>	304会員(H23)	345	会員		600会員	累計	
【補】環境センターの来館者数及び出前講座の受講者数	157,372人/4年(H20~H23)	38,966	人		164,000人/4年(H24~H27)	累計		
戦略14	① 研究開発部門の企業立地件数	9件/4年(H20~H23)	6	件		10件/4年(H24~H27)	累計	
	海外高校への留学者数	10人/年(H23)	19	人		100人/4年	累計	
	② 英語の学習が「好き」と回答した生徒(中1~中3)の割合	46.9%(H23)	48.4	%		毎年度、前年度の割合を上回る	単年	★
	英語の学習が「分かる」と回答した生徒(中1~中3)の割合	46.4%(H23)	47.5	%			単年	
留學生の数<再掲>	575人/年(H23)	655	人		1,000人以上/年	単年		
戦略15	① 教科の学習が「好き」と回答した児童(小3)の割合	77.8%(H23)	76.0	%		毎年度、前年度の割合を上回る	単年	
	教科の学習が「分かる」と回答した児童(小3)の割合	83.4%(H23)	82.4	%			単年	
	【補】「親の学び」講座実施率	50.3%(H23)	62.0	%		70%	単年	
	② 海外高校への留学者数<再掲>	10人/年(H23)	19	人		100人/4年	累計	
ものづくりチャレンジ事業・高校生の就業支援等プロジェクトの受講児童・生徒数	1,432人/年(H23)	1,342	人		1,700人/年	単年		

## 3 平成24年度の主な成果・今後の課題や方向性

○：平成24年度の主な成果  
●：今後の課題や方向性

### 【戦略11】熊本都市圏の拠点性向上

- 「くまもと未来会議」の意見等に基づいて州都構想を策定。
- スポーツイベント、大型コンサート等への助成制度を創設。
- ソウル線の利用促進や中国線に向けた航空会社との交渉、台湾線に向けた知事トップセールス等を実施。
- 空港ライナーの本格運行への実証実験、崇城大学との包括連携協定締結、空港周辺及び第2空港線沿線の景観向上等、大空港構想を推進。
- 九州中央自動車道、南九州西回り自動車道、国道57号4車線化、熊本天草幹線道路の事業推進等。
- 地方の立場から道州制の議論を十分に進展させ、また、州都議論への県民の主体的参加を促進。
- 県・熊本市が連携した首都圏とアジアに向けた「くまもと」の発信の可能性検討。
- 「日本一広く美しい空港」の実現に向け、路線強化、利便性・拠点性の向上、周辺の魅力向上等を着実に推進。
- 熊本駅から中心市街地に向けた賑わいづくりの促進や景観の向上。
- 幹線道路整備の着実な推進、国への要望により新規事業化された滝室坂道路及び本渡道路事業の着実な推進。

### 【戦略12】悠久の宝の継承

- 鞠智城の知名度や歴史的価値の認知度が上昇。また、「くまもと歴町50選」として60地区を選定。
- 「天草の崎津集落」が世界文化遺産登録をめざす「長崎の教会群とキリスト教関連遺産」の構成資産に追加。「九州・山口の近代化産業遺産群」及び「阿蘇」についても、国文化財指定の追加や管理保全計画の策定等が進展。
- 「水の国くまもと」に対する県民の認知度が向上。改正地下水保全条例の全面施行で地下水取水の許可制開始。
- 阿蘇の草原維持に向けたボランティア活動の安全対策を強化。是正指導で違反広告物の件数が20%減少。
- 山鹿市番所地区で、県内初の景観農業振興地域整備計画(景観農振計画)を策定。
- 鞠智城の学会等での認知度向上と研究活性化。また、町並みの保存等に向けた民間や関係自治体との連携推進。
- 世界農業遺産に登録された「阿蘇」の国内暫定一覧表入りを含めた世界文化遺産登録をめざした活動の展開。
- すべての既採取者が許可を受け、地下水涵養対策や節水等が取り込まれるように制度の周知を徹底。
- 阿蘇の草原や景観保全の機運醸成につながる計画等の策定や防災対策の検討。
- 市町村の景観農振計画策定の推進や新幹線沿線以外の国・県道沿線等の県内各地での景観づくりの展開。

### 【戦略13】環境を豊かに

- 条約名を「水銀に関する水俣条約」とすること及び条約締結の外交会議の熊本市及び水俣市開催が決定。
- 南関町及び和木町のそれぞれと、県及び財団法人熊本県環境整備事業団の三者で、公共関与最終処分場に係る環境保全措置や地域振興策等を確認する環境保全協定を締結。
- 熊本らしい美しい景観と豊かな自然を身近に感じることができ環境を整備し、新たな地域の魅力を向上。
- 有明海・八代海の水質向上のために、下水道で雨水と汚水に分ける分流化も含めた合流改善を実施。
- 水俣条約外交会議の開催後も水俣への各国からの来訪者があり、水俣病の教訓や再生に取り組む姿を現地で学ぶようにするため、水俣病に関する適切な情報発信を継続。
- H27年秋頃に、環境教育の拠点となる最終処分場(クローズド・無放流型)を供用開始。

### 【戦略14】熊本アカデミズム

- 知の結集のシンボルとして、五百旗頭真氏を熊本県立大学の理事長に招へいするとともに、「くまもと未来会議」に新たな委員が参画。
- ターゲット企業の絞り込み、重点的なアプローチ等により、研究開発部門6件の企業立地を達成。
- 世界への飛躍を志す県内企業や芸術家、学生などの海外進出を支援する官民出資によるファンドを創設。
- 県学力調査の結果、英語が「好き」「分かる」と回答した生徒の割合はともに年度目標を達成。
- 大学や研究機関等との着実な連携により、水俣市において知の集積が図られるよう支援。
- 官民出資ファンドへの多くの寄附金の協力を得るための取組みや、ファンド充当事業の拡充。

### 【戦略15】夢を叶える教育

- 870カ所での「親の学び」講座が開催され、34,857人が参加。また、「くまもと家庭教育支援条例」の制定により、家庭教育の重要性への理解が向上。
- 生活保護世帯を対象にした子どもの学習・進学のための支援等に小1から高1までの76人が参加し、高校進学希望の中3生全員が進学。また、95人のひとり親等に対して在宅就労に向けた技能訓練を実施。母子家庭等就業・自立支援センターに「日曜相談窓口」を設置するなど、経済的自立等につながる環境整備が進展。
- 海外高校留学者数は県立高校11人、私立高校8人に増加。
- 全県立高校でインターンシップを実施。体験生徒数:7,279人、事業所数:2,691事業所、体験率:59.5%を達成。
- 市町村教委等と連携した「親の学び」講座の開催。また、くまモンを活用できる教育プログラム開発の推進。
- 生活保護世帯の進学希望の中3生全員が進学できるようにし、また、高校生の中退が少なくなるよう支援。
- 高校生の海外へ挑戦する意識の醸成及び進学の実績づくり。